

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 210-0862
住 所 川崎市川崎区浮島町10-8
氏 名 日本合成アルコール株式会社
代表取締役社長 守谷 治 印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	日本合成アルコール株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区浮島町10-8		
該当する事業者 の要件	☒ 規則第4条第1号該当事業者		
	☐ 規則第4条第2号該当事業者		
	☐ 規則第4条第3号該当事業者		
	☐ 規則第4条第4号該当事業者		
	☐ 上記以外の事業者（任意提出事業者）		
主たる事業 の種類	大分類	E	製造業
	中分類	16	化学工業
主たる事業 の内容	工業用アルコールの製造		
事業者の規模	☒ 原油換算エネルギー使用量		14,288 k l
	☐ 自動車の台数		台
	☐ エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t -CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	2019年度～2021年度(報告年度2021年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
- 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
- 3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
- 4 ※印の欄は記入しないでください。
- 5 氏名(法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあっては、その代表者)が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況（第1、2、4号該当者等）

（1）計画期間における温室効果ガスの排出の量等の状況

ア 温室効果ガスの排出の量

	基準年度 (2018 年度)	第1年度 (2019 年度)	第2年度 (2020 年度)	第3年度 (2021 年度)	目標排出量
排出量 (t-CO ₂)	(実) 25,729 (調) 25,587	(実) 25,884 (調) 25,737	(実) 27,506 (調) 27,326	(実) 27,247 (調) 27,199	(実) 24,958 (調) 24,948
削減率		(実) -0.6 % (調) -0.6 %	(実) -6.9 % (調) -6.8 %	(実) -5.9 % (調) -6.3 %	(実) 3.0 % (調) 2.5 %

イ 温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値（任意記載）

原単位等の活動量	生産量				原単位等の単位	t-CO ₂ /KL
	基準年度 (2018 年度)	第1年度 (2019 年度)	第2年度 (2020 年度)	第3年度 (2021 年度)		目標とした値
排出量原単位等の値	0.4065	0.4273	0.3994	0.4010		0.3943
活動量の値	63290	60570	68860	67940		-
排出量原単位等の削減率		-5.1 %	1.7 %	1.4 %		3.0 %

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況等についての説明

第1年度	装置内照明のLED化推進および熱回収配管改造等で排出量削減を図ったが、10月から低生産量での運転を余儀なくされ、生産量の減少および非効率な運転が続いたために排出量、原単位ともに悪化した。	
第2年度	需要増加による生産量の増加に伴い、排出量は悪化した。高生産量での安定した運転に加えて例年よりも燃料として副生アルコールを多く燃焼させることで都市ガス量を削減できたため原単位は向上した。	
第3年度	高生産量での安定した運転を行っていたが、熱交換器の故障による熱回収低下運転及び不純物反応塔停止により蒸気使用量が増加したため、原単位は基準年度よりは向上したものの第2年度と比較すると悪化した。	
計画期間における排出量増減等の評価 (第3年度の報告時に記載)		装置の特性上、高生産量ほど原単位は向上しやすくなるため、第2、3年度については基準年度よりは原単位は向上したが、排出量は目標を達成できなかった。
上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)		品質安定化の取り組みを行い、蒸気使用量を削減することで原単位を向上させる。

（2）温室効果ガスの排出の量の状況（全社目標）（任意記載）

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況

(1) 措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない装置を実施した場合は、実施した内容の最後に（追加実施）と記載してください。)

計 画	・ 主要設備等の保安全管理 エネルギー管理要領、EMS手順書類に基づき保安全管理を推進するとともにそれらの定期的な見直しを実施する。 ・ 生産設備のエネルギー管理 運転データの解析や工程分析を活用し、運転条件の最適化を検討することによりエネルギー使用量の最適化を図る。 ・ 照明設備の新設・更新 老朽化した水銀灯、蛍光灯をLED照明に順次更新する。 ・ その他 熱回収の高効率化を推進する。
第1年度	・ 主要設備等の保安全管理 エネルギー管理要領に関する教育を実施するとともに内容の見直しを実施。 ・ 照明設備の新設・更新 場内蛍光灯47基をLED灯に交換した。 ・ 生産設備のエネルギー管理 定期的な工程分析をもとに運転条件をこまめに調整し、最適化を図った。 ・ その他 熱回収配管の一部をサイズアップし、回収媒体流量増加による蒸留塔での蒸気使用量の削減を図った。
第2年度	・ 主要設備等の保安全管理 エネルギー管理要領に関する教育を実施するとともに内容の見直しを実施。 ・ 照明設備の新設・更新 場内蛍光灯18基をLED灯に交換した。 ・ 生産設備のエネルギー管理 プロセスガスクロの更新により、運転状況をこまめに把握することが可能となり、同時に運転条件の最適化も随時行った。 ・ その他 サーモコンプレッサーを更新し、蒸気回収を効率化することで蒸気使用量の削減を図った。
第3年度	・ 主要設備等の保安全管理 エネルギー管理要領に関する教育を実施するとともに内容の見直しを実施。 ・ 照明設備の新設・更新 場内蛍光灯71基をLED灯に交換、不要照明16灯撤去した。 ・ 生産設備のエネルギー管理 品質安定化に取り組み、蒸気使用量の削減を行った。
計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)	水銀灯、蛍光灯の照明設備の新設・更新は完了した。 サーモコンプレッサーの更新等により、熱回収の効率化を図り、さらにプロセスガスクロを使用してこまめな運転条件の変更を行ったことが蒸気の削減につながった。

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 前年度における再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(追加検討を実施した場合は「○」、追加の検討を実施していない場合は「×」を記載してください。また、追加検討を実施した場合はその結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	追加検討の有無	検討結果
太陽光	×	
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	×	
その他 ()		
その他 ()		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度

(3) 前年度に実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入状況

(追加導入がある場合は「○」、追加導入がない場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	追加導入の有無	設備等の種類	追加導入の有無
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム (FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他 ()	
EV、PHV、FCV	×	その他 ()	

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に（追加実施）と記載してください。)

計 画	なし
第 1 年度	なし
第 2 年度	なし
第 3 年度	なし

5 その他、地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に（追加実施）と記載してください。)

計 画	・グリーン購入の推進（EMS） ・廃棄物の減量および分別の徹底（EMS）
第 1 年度	・グリーン購入の推進（EMS） ・廃棄物の減量および分別の徹底（EMS）
第 2 年度	・グリーン購入の推進（EMS） ・廃棄物の減量および分別の徹底（EMS）
第 3 年度	・グリーン購入の推進（EMS） ・廃棄物の減量および分別の徹底（EMS）

6 基準年度からのエネルギー起源CO₂の排出の量等の推移（1、2号該当者等）

（1）事業者単位

	基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度
エネルギー起源 CO ₂ 排出量	25,729 t-CO ₂	25,884 t-CO ₂	27,506 t-CO ₂	27,247 t-CO ₂
原油換算エネルギー 使用量	13,325 KL	13,449 KL	14,361 KL	14,288 KL
事業所の数	1	1	1	1

（2）事業所等単位

ア 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量（t-CO ₂ ）			
		基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度
川崎工場	川崎市川崎区浮島町10-8	25,729	25,884	27,506	27,247

イ 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量（t-CO ₂ ）			
		基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度